

令和6年度使用小学校教科用図書審議会

第3回会議録

日時：令和5年6月27日（火）

18時00分～20時06分

場所：文京シビックセンター20階

教育委員会室

文京区教育委員会

# 令和6年度使用小学校教科用図書審議会（第3回）会議録

日時：令和5年6月27日（火）18時00分～20時06分

場所：文京シビックセンター20階 教育委員会室

「出席」	委 員 長	山 田 晴 康
	委 員	森 田 恵 子
	委 員	吉 川 宏 樹
	委 員	土 肥 陽 子
	委 員	吉 岡 淳
	委 員	岩 崎 政 弘
	委 員	小 池 夏 子

「幹部職員」	教育指導課長	赤 津 一 也
--------	--------	---------

「事務局」	統括指導主事	藤 咲 秀 修
	指 導 主 事	室 岡 祐 太

○ **担当** それでは、お時間が参りましたので、私から最初に配付資料の確認等をさせていただきます。

本日お配りいたしました資料は、本日の次第、資料1「答申文案」、資料2「令和6年度使用学校教科用図書審議会（第2回）会議録」でございます。

よろしいでしょうか。

本日ですが、委員一名からは御欠席の連絡をいただいております。

それでは、早速、委員長に審議を進めていただきます。よろしく申し上げます。

○ **委員長** それでは、皆さんよろしく申し上げます。

「令和6年度小学校教科用図書審議会」、第3回を開会いたします。

初めに、審議の進め方について確認いたします。

前半は、第2回の審議会に続き、本日は音楽、図画工作、家庭、保健、外国語、特別の教科道徳の教科用図書を検討の上、文京区立小学校が令和6年度より使用する教科用図書として望ましいものを答申するための審議をしていただく予定であります。ぜひ、本日道徳まで無事に行けますように、御協力をお願いいたします。

審議を進めるに当たって、調査研究委員会のまとめ、基礎資料が出ているかと思えます。そちらにまず目を通していただいて、その中の出されているものを確認するので教科書を見ていただくというような形で御意見をいただきたいと思っております。

配付資料については、先ほど事務局より確認がありましたとおりでございます。審議を進めるに当たって、これまでの資料を基にということで、よろしく申し上げます。

それから、最後に、記録の情報公開について確認をさせていただきます。本審議会の審議内容については、個人名を伏せて、話を要約させていただいたものを記録としてまとめることとなっております。

記録については、8月31日まで時限秘となり、それ以降、情報公開の対象となりますので、御承知おきをください。

では、よろしいでしょうか。

それでは、審議をまず音楽から始めていきたいと思えます。

皆さん、前回配付いたしました調査研究委員会からのまとめがあるかと思えます。こちらに目を通していただいて、その上で教科書のほうにもお目通しをいただいて、御意見のほうを頂戴できればと思っております。

音楽については、2つの出版社があります。ですから、時間的には、後半が教科書の会社が5つかありますので、まず、時間を3分程度取りたいと思えますので、調査研究委員会のまとめのほうからお目通しをいただければと思えます。

それでは、委員の皆様、いかがでしょうか。音楽、教育出版と教育芸術社ということでございます。こちらの教科書のこういうところが、調査研究委員会のところに書かれていたこういう点でやはりよかったとか、それ以外の視点で何かそれぞれの教科書のよさとか、使いやすさとか、文京区の子供たちにより合っているのではないかというような視点で御

意見をいただければと思います。

では、どなたかいかがでしょうか。

私のほうから。私は個人的にはリコーダーがとても苦手だったので、リコーダーの始まる3年生の教科書を見てみました。教育出版のほうと、あと教育芸術社を比べますと、タンギングと息の使い方というところでいくと、教育芸術社のほうが、より具体的に息を出すってこういうことだよと、紙を置いて息の出し方が具体的に表現されていて、リコーダーで大事なタンギング、息の使い方みたいなものがより具体的に視覚化されて提示されているのは教育芸術社のほうが分かりやすいなというような感じを受けました。吹き出しを使って大切なポイントをまとめているみたいなのところもあったかなと思っています。

ほかの委員の皆さん、いかがでしょうか。

何かございますか。

では、お願いします。

○ **委員** 今、リコーダーのタンギングというお話があったのですが、私は1年生の鍵盤ハーモニカのタンギングをちょっと見てみたのですが、こちらでは教育出版のほうで、タンギングをする場合、同じ音を吹く場合には鍵盤を離さずに押さえたままで、いわゆるタンギングで音を切って出すんだよということが、こちらは教育出版のほうで丁寧に教科書に出ているなという感じがしたのです。なので、鍵盤ハーモニカからのリコーダーがタンギングがすごく重要だなと思うので、子供たちも難しいところなので、始まりの学年の段階でしっかりと教えてくれているのは、教育出版のほうがいいのかなと思いました。

○ **委員長** リコーダーと鍵盤ハーモニカ、タンギング、その教科書でどこで力を入れて丁寧にというのは、教科書によっても違うところはあるのかもしれないですね。ありがとうございました。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○ **委員** 審議会の資料のほうで、教育出版のほうの教科書の写真、挿絵が児童の心象に合っているというのがあって、今日ちょうど5年生の音楽鑑賞教室、オーケストラを見てきたのですが、そのオーケストラについての取り上げの写真が、教育出版はこの感じでがっつとページ数を使ってこういう形なのですが、教育芸術社のほうはこの形で、それぞれの楽器については、教育芸術社のほうが大きく取り上げているのですが、パートについては具体的にこちらはそれぞれをやっているというところでは、こちらに書いてあるとおり教育出版の児童が自分のイメージを膨らませるところでは、ちょうどそういうところが見られたかなという感じでございます。

○ **委員長** ちょうど今日、鑑賞教室でしたからね。今の写真を見たら、あれ、シビックかなと一瞬思ってしまったけれども、違いますね。

でも、ここにある子供の心象に合っている、心に残りやすいみたいなのところの工夫というのは教育出版のほうで、一つオーケストラを取り上げても多少違うところはあるのかな

と思います。

ほか、いかがでしょうか。

○ **委員** 同じ意見、重なってしまうのですけれども、教育出版の挿絵とか写真がすごくきれいで、全く同じ意見なのですけれども、ほかのところでも『朧月夜』で菜の花畑の写真が貼ってあったりとか、歌のイメージを広げるのにすごくいいなというふうに思いました。

○ **委員長** ほかの学年のほかのそういうところも、効果的な部分がというところですね。ありがとうございました。

教育芸術社の教科書については、何か委員の皆様、いかがでしょうか。

お願いします。

○ **委員** まとめのほうにも書かれてはいるのですけれども、「見つける」「考える」「歌う」というふうに記述されていて、何を学ぶのかとか、そういったのがすごく分かりやすくなっているというのが教育芸術社かなというのを感じます。どの学年においてもしっかりそういうのが書かれていて、自分たちで何か考えるとか、そういうのは音楽において創造性を育むという意味ではいいのかなと感じました。

ただ、もう一つの教育出版のほうは、表現というものを意識して教科書がつくられているなどというのを感じていて、歌の表現を楽しもうというページがあえてつくられていたりとか、世界の表現の仕方みたいなものがあるって、例えば日本だったら太鼓の絵が描かれていたりとか、ヨーロッパのほうだと女性の方が山をバックに歌っているような写真があったりとか、そういう各国の音楽的な伝統をしっかり写真に残しているような感じを得たので、そういった表現というものを意識しているのがこちらの教育出版のほうなのかなというのを感じました。

○ **委員長** ありがとうございます。

では、ほかはいかがでしょう。

私は今、ぱっと見ていたのですけれども、二次元コードと言うのですか。教育芸術社は右側のページの上に全部これがあるのですよね。見やすいというか、私は自分、個人的には気が散りやすいので、こういうふうに固定していただけると、そういう見やすさ、使いやすさもあるのかなということは感じたところです。

では、音楽につきましては、事務局のほうから何かございますか。

○ **担当** 今、お話がありましたとおりなのですけれども、やはり教育出版のほうは写真や挿絵の部分が児童の心象に合っている。もちろんまとめにはございますが、児童のイメージを広げるような表現というところを意識した構成になっているのかなと思います。

その話で言いますと、題材構成は非常にシンプルですので、子供たちに考えさせるところをメインに非常に考えられているような構成内容になっているという点が特徴的だなと思います。

教育芸術社につきましては、今、お話がありましたとおり、「見つける」「考える」「歌

う・演奏する」というのがパッケージ化されているというところも、比較的に見やすい構成になっているのかなど。

逆に、児童の引き出し、気づきというのが全て吹き出しで表現されていますので、子供たちが授業を進める上での手助けになるというところも、まとめのほうには書かせていただいております。

以上です。

○ **委員長** 吹き出しにいいヒントとなること書いてあるよということを含めて、パッケージ化がというところでしたね。分かりました。

それは、どうでしょうか。委員の皆様、音楽につきましてはもうよろしいですか。

委員の皆様から意見のほうをいただいたということにしたいと思います。

では、次に参ります。次は図画工作で、図画工作につきましても2つの出版社から教科書が出されております。まず、ちょっとお時間を取りますので、図画工作についても調査研究委員会のほうの内容を確認していただきながら、教科書に目を通していただければと思います。お願いします。

では、いかがでしょうか。委員の皆さん、何か御意見はございますか。

お願いします。

○ **委員** 開隆堂のほうのまとめの2番にもあるように、今、QRコードを見てみたらワークシートが結構入っていて、これは非常にいいなと思いました。それを開くとワークシートが出てくるのです。校務改善にもいいなと思います。

こちらにもいろいろ入っていますが、ワークシートという点では開隆堂のほう充実しているというか、そのまま使える感じで入っています。

○ **委員長** 文教出版はまた違うのですか。

○ **委員** はい。用具の使い方とか作品例とかは豊富に入っています。

○ **委員長** その辺は豊富に入っていると。分かりました。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○ **委員** 感覚的な話になってしまうのですが、図画工作ということで、どちらも作品の写真が多いのですが、日本文教出版のほうは何となく作品の一覧というか、そういう感じがするのですが、開隆堂さんのほうは、同じような作品の写真ではあるのですが、何となく作り方というか、その背景が想像できるような写真だったり、全体の雰囲気はありますが、言葉にするのは難しいのですが、そういうふうな印象を、1年生から見て、6年生まで見たのですが、そんな感じをちょっと受けています。

○ **委員長** 例えば調査研究委員会の資料で、ユニバーサルデザインの観点に配慮したレイアウトみたいところで、同じような写真でも開隆堂さんのほうがちょっと分かりやすいとか。

○ **委員** 作り方の工程がとか、特に書いてはいないのですけれども、恐らくこういうふうな作り方ではないだろうかという、詳しい工程は順序が逆になったりするかもしれないけれども、何となくの構図が見えるというか、湧く感じが。

○ **委員長** 見えるようなということですね。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○ **委員** ちょっと視点が違うかもしれないのですけれども、開隆堂さんに関しては、どのページにも「学習のめあて」としっかり書かれているのです。もう一つの文教出版さんのほうは、同じようなことは書かれているのですけれども、「学習のめあて」と書いていないので、一々しっかり読まないとぱっと目に入ってこないような印象を受けまして、何をめあてとしているのかというのをぱっと見やすいのは、開隆堂さんのほうなのかなというのを感じました。

○ **委員長** 確かにここに書かれているのと、「学習のめあて」、その表記の仕方というか。

○ **委員** 同じようなことは書かれているのですけれども、「学習のめあて」と書かれているので、こういうことをやるのだというのがすぐ頭に入りやすいのは開隆堂さんのほうかなというのを感じました。

○ **委員長** ありがとうございます。

私、1年生で見たのですけれども、最初、1年生の出だし、こんな感じで1年生、こんな図工のお勉強をするのだよと。私、文教出版のほうはこれはすてきだなと思ったのは、もうあまり細かい説明なく、子供たちが作るとか、丸めるとか、見るとか、丸ごと友達とか、触るとかあるのですけれども、その裏面にいろいろな素材がぶわっと。いろいろな形があって、いろいろな色があって、いろいろな使い方ができそうだなと。日本文教出版のほうは、子供はこの表現、これを見たときにいろいろ想像が膨らむのかなと。だから、1番のところ、意欲とか興味・関心を引き出す配慮は、この素材丸ごと。

こっちはどうかというと、開隆堂さんのほうは、子供が何かその素材を使って実際に動いている、活動している姿。だから、これはこれで、こんなふうにするんだというのはあれだと思うのですけれども、ここはそこまで書いていないのですが、これだけたくさんものが散りばめられていると、何かいろいろなことができそうとか、音が聞こえてきそうとか、匂いがしてきそうとか、そういう興味の引き出し方が日本文教出版さんの1年生だけですが、最初のページを見ただけちょっと感じたところがあります。

ほか、いかがでしょうか。ほかに文教出版さんのほうで何か工夫されているところとか、私も1・2年生中心に見てしまったので、ほかの学年でもし何かこんなところがというのがあれば。いかがですか。

事務局のほうからございますか。

○ **担当** 先ほどもお話がありましたが、開隆堂出版のほうは、全学年共通して育てたい

力が3つのキャラクターで3観点、知識・技能、思考力・判断力、表現力・主体的に学ぶ態度のところが書かれているので、各学年の目標は捉えやすいということでした。

もう一つ、開隆堂は、全ての作品にナンバリングされていて、どの図版案を見ればいいのかというところと、写真と文字の隙間が大きいので児童にとって見やすいというのがありました。

日本文教出版に関しては、冒頭の見開き、一番最初の見開きのコラムに、紙を開いたところに書いてありますが、「学習の進め方」ということで、授業の進め方がイラストとともに紹介されて、造形遊び、子供たちが考えてやるような遊びのところでの支援の援助になるということでした。

あとは、先ほど話がありました見出しやレイアウトの工夫、吹き出しのアドバイスや大きな写真の配置、それが児童の意欲・興味・関心を引き出すという配慮で使われているということがございました。

以上です。

○ **委員長** ありがとうございます。

それでは、図画工作のほうはいかがでしょうか。と言いながら、私、気づいてしまったのですけれども、文教出版さんの1年生なのですけれども、最後、資料ではさみはこんなふうに切るのよ、使うのよというところが、ただ、描く、切る、貼る、付けるという分け方がしてあって、開隆堂さんのほうは、学びの資料として、はさみの使い方、のりの使い方、紙目の話とか、何か使う用具、描くものいろいろあるね、クレヨン。私は、分け方としては、切るというときには、はさみを使って、あと手でちぎるというもの。あとは描くというと、クレヨンもあるし、絵の具みたいなものもあるのだよと。だから、図画工作の中で学びに使っていく大きなところが、その中にはさみがあって、具体的にはさみの使い方というよりも、こんなほうが子供としては、描くときにはどうすればいいんだっけなど。描くの項目を見ればいい。この見やすさは、さっきの表紙のところと同じように、子供にとって項目の分け方としてはすごく分かりやすいから、描くときはここを見ればいい、切るというのは、はさみで切る、または、手で切る場合にはちぎると言うのかもしれないけれども、日本文教出版はそういう項目の分け方が結構子供目線で分かりやすいかなというようなことを、今、お話を伺って見ながら感じたところですよ。

ということで、図画工作のほうはよろしいでしょうか。

図画工作については、御意見をいただいたということで、よろしく願いいたします。

続きまして、図画工作の裏になります。家庭です。家庭については、これも2つの出版社のほうから出されています。まずは調査研究委員会の報告、まとめのほうを御覧いただきながらということで、少しお時間を取ります。よろしく願いいたします。

家庭科は5年生からということで、5・6年生で、両方とも1冊になっているというような状況です。では、よろしく願いいたします。

委員の皆様、いかがでしょうか。家庭科について、何か意見はございますか。

お願いします。

○ **委員** 東京書籍の7番のところに、「玉どめ」「玉結び」のよい例だけでなく悪いものということで、5年生で最初にやるところで、東京書籍の30ページ、31ページ、31ページの丸のところですが、マル・バツというところが「玉どめ」の悪い例、いい例が載っているところなのですが、開隆堂で同じところのページ、22ページ、23ページを見ると、確かにこっちはいい例しか載っていないのです。23ページの丸の上の2つ。ですが、開隆堂のほうの5番、見開きで活動の流れが完結しているため、全体の見通しが持ちやすい。また、左から右の流れで統一されており、下地の色がついて見やすくなっているということであると、針と糸を使って縫ってみようという全体の流れは、開隆堂のほうで1ページで見やすくなっていて、東京書籍のほうは、これだけでは活動が見えなくて、後ろのほうまで、前後が入って1つの活動になっているということであると、活動の流れということであると、開隆堂のほうが見やすいのではないかと。

○ **委員長** ということは、その分、ページ数がこっちのほうがかさんでいるのですかね。細かく載っているということですね。

○ **委員** 細かく載っている部分はあるかもしれないです。

○ **委員長** でも、一目でというところ、開隆堂出版のほうで、細かく次のページでということであれば、東京書籍のほうでより細かいということもあるかもしれませんが、見開きで完結がある程度して見やすいというところは確かに。

ほか、いかがでしょうか。

私、ちょっと見ていて、裁縫のところ、始まるころ、開隆堂は「ソーイング初めの一歩」、こういうタイトルで始まっているのです。東京書籍は「一針に心を込めて」。タイトルのつけ方も、東京書籍のほうで私好みかなと。ただソーイング初めの一歩よと言うよりも、一針に心を込めて、一針一針。その単元の最初に子供たちにどう伝えていくかという視点でいくと、その辺、子供たちへのメッセージ性が東京書籍のほうにあるかなと、そんなことを感じました。

あとは、その下に学習の流れということが書いてあって、開隆堂さんのほうは「学習のめあて」ということで、こういうめあてで、「気づく・見つける」「わかる・できる」「生かす・決める」という、この一連のステップが展開できるようになっているというところに合わせてめあても書かれているので、そこはそれぞれ分かりやすさがあるかなと思いました。

今、裁縫のところだけだったのですが、ほかのところではいかがですか。

どうでしょうか。

○ **委員** 先ほど「玉結び」「玉どめ」の部分でもそうだったのですが、私はミシン縫いのところを見てみたのですが、なかなか今、ミシンを使うというのが子供たちの生活の中に普通というのではない今の世の中かと思って、一方で、ミシンは子供たちも意欲を持って、けれども難しいということかと思うのですが、先ほどありまし

たけれども、開隆堂さんのほうは、見開きでミシンの使い方が分かりやすく載っているなというはあるかなと思います。

東京書籍さんのほうは、どうしてもページが見開きではない形で進んでいくので、いろいろページを行きつ戻りつして見なければいけないのかなというところがありました。

それと、一言で言うと暮らしというか、家庭科なので、暮らしという部分で学んでいく教科でもあると思うのですがけれども、開隆堂さんのほうは、そういった暮らしという意味では、すごく目次とかを見ても詳しく載っているなと思ったのです。そういう意味だと、暮らしについてしっかり考えていくというのだと、文京区の子供たちには合っているのかなという気はしました。

以上です。

○ **委員長** 家庭科は、自分の身近な暮らしというところが、そこにどう生かしていくかというようなところがありますね。

そういえば「生かす」で、例えば開隆堂さんは「気づく・見つける」「わかる・できる」「生かす・決める」でやっているのですが、東京書籍のほうは、見つめよう、計画・実践しよう、生活に生かそう、新しい課題を見つけようがベースで、それプラス生活を変えるチャンス、生活をよりよく、さっき委員のほうからもありましたけれども、暮らしというところ、開隆堂とは違う迫り方だけれども、プラスでそこを学習の進め方の中で捉えているところは、それはまた見やすさでもあるかなと思いつつながら、SDGsというところが調査研究委員会の中でもあるのですけれども、東京書籍はSDGsという単独のページがぼろぼろと出てくるのです。開隆堂さんは、SDGsみたいなことはどこか。

○ **担当** 開隆堂は、一番最初の2ページのところに、見開きのこの状態になっているところにSDGsが。

それと、東書のほうは、43ページに単独でページがございます。

○ **委員長** だから、どこでSDGsということを意識させていくかみたいなのところがあるかもしれないですね。あとは、どちらのほうの方が分かりやすく子供たちがそれを意識して学習を進めていくことができるかみたいなのところかなと思いますけれども、両方ともSDGsについては触れているということですね。

ほか、いかがでしょうか、委員の皆さん。

お願いします。

○ **委員** 東京書籍さんのほうが、「成長の記録」というのが6ページ、7ページにあって、次へのチャレンジというのを一つ一つの項目で書かせるというのは一つ特徴かなと思っていて、私、キャリアコンサルタントの観点で言うと、キャリア教育のような感覚を得るというか、子供たちに将来なりたい自分みたいなのを考えさせるような、そういう項目の書き方になっているなというのを感じました。

もう一つの開隆堂さんのほうは、次へのチャレンジとか、成長を記録できるような部分が多分ないのかなと思うのです。なので、そこが違うのと、開隆堂さんのほうもキャリア

インタビューというのが載っているのです。東京書籍さんも、プロに聞くということでキャリアインタビューに近いものが載っているのですけれども、そういった意味では、両方ともそれはあるのですけれども、その中でも東京書籍さんは、プロに聞くという欄の上のQRコードを読むと、動画が見られるのです。そのお仕事をしている方の特集動画みたいなものにたどり着いたので、それはそれで面白いなというのを感じました。

○ **委員長** そことつなげて、いろいろ詳しい資料にもつながっていくということですね。ありがとうございました。

では、事務局のほういかがですか。何かございますか。

○ **担当** 東京書籍さんのほうで話に出たのは、先ほどお話があったSDGsだったり、あと根拠となるデータですね。体力とか熱中症とかというところの部分で、根拠となるデータを多く載せているということでした。

開隆堂さんのほうは、先ほどお話にあった見開きで活動が完結しているのも、子供たちが教科書を使う際に、自分たちで練習するときに見開きで置いた状態で練習ができるというようところで視点としてはございました。

以上です。

○ **委員長** ということで、先ほど委員の皆様から出たところが特徴として調査研究委員会の中でもかぶって意見が出されていましたが、家庭科のほうは以上、意見を出していただいたということで、次に移りたいと思います。

次、保健になります。保健については幾つかというか、結構あります。東京書籍、大日本図書、大修館、文教社、光文書院、学研というふうに6つございますので、会社としては多くなっておりますので、ちょっと長めに時間を取りますので、まず調査研究委員会のほうの内容を御覧いただいてということで、お願いいたします。

では、委員の皆さん、いかがでしょうか。たくさんあるので、この教科書についてはまず、アットランダムにここについてはこういうところがとても見やすくていいのではないかと、その教科書のよさを出していただければなと思っています。

いかがでしょうか。何か委員の方、ありますでしょうか。

お願いします。

○ **委員** 大修館書さんが、見開きで「生活の中の保健を探そう」というのが、3・4年、5・6年、両方ともそうになっていて、5・6年に関しては新聞の記事なんか載っているのですけれども、「生活の中の保健を探そう」となっているのが、ほかのところと違って特徴的で、ほかのところは結構健康についてとか、単なる目次になっていたりとかしているから、生活の中に保健があるということから、保健を身近に感じられるというのは面白いなと感じました。

○ **委員長** 大修館の。

○ **委員** 最初の見開き、完全に見開きになっている。5・6年は新聞の記事とかが載っている。

○ **委員長** 保健と生活とをつなげていくような、最初に子供たちに考えさせ、身近な中で意欲化を図るみたいなところですかね。ありがとうございます。その辺の工夫がほかとちょっと違いますものね。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○ **委員** 授業で実際に活用する場合に、保健というのはあまりノートを保健用に用意したりとか、ワークシートを時間をかけて作ったり、なかなかそこまで手が回らないですよ。そういう意味で言うと、学研のものは非常に書き込んだりするようなところも豊富にあって、ワークシートとかを作る暇がなくても、教科書だけで授業ができるような感じで構成されているかなと思いました。非常に流れもすっきりしていて、資料が絞られている分、すっきりしている印象を受けました。

○ **委員長** そうですね。学研のほうは書き込みの場所に罫線も入っていたりして、これがそのまま教科書イコールノートという使い方も、気づいたことを書き入れるというところでは、分かりやすいということですかね。ありがとうございます。

ほかのところ。

○ **委員** 全部見たけれども、学研が断トツでそうでした。

○ **委員長** 例えば東書なんかを見て、「書こう」というマークはあるのだけれども、罫線があるかないかでも全然書きやすさは違いますものね。分かりました。ありがとうございました。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○ **委員** 保健の授業で印象に残っているのが、近所の子が、どうやって赤ちゃんつくるのというのをすごい質問されたことがあって、教科書で詳細はもちろん書けないですけども、ちょっと今見たところ、おなかの中に赤ちゃんが入っている絵がきちんと描かれているのが、大日本図書と、あと光文書院だったかな。3社ぐらいあって、光文書院も載っていて、でも、大日本図書のほうが割と詳細な感じに描かれていて、こういうのも資料として、ここで目に触れるって大事なのではないかなと思うので、きちんと描かれているほうが一次資料としていいような気がします。東京書籍も、おなかの中に赤ちゃんがいる絵が描かれていますね。

文教社とか、ほかでも載っていないところもありまして、親目線で言うと、そこはきちんと描いてくれているほうが、一次資料としてありがたいなと思いました。

○ **委員長** ありがとうございました。

どの程度の資料が、教科書によって資料の描かれ方、入れ方が違ってくるのだけれども、例えば今の大日本図書なんかは、新しい命というところ、それが子供の今後の学びにもつながるかもしれない。興味にも。あとは、ある程度のことがこれを見ながら想像できるというところもあるかもしれませんね。人の誕生、理科との関わりのところについても。分

かりました。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょう。

東京書籍とか、文教社、光文のところについては、見やすいなとか、その辺の御意見はございますか。例えば東書はどうですか。東書だけにこだわらず、ほか、何かあれば。

いかがですか。

○ **委員** がん教育について、6年生で扱うようなことになっているのですが、扱いの程度に大きな違いがあるところがあるのですけれども、教科書が多過ぎて、今、比べている最中なのですが、生活をどう変えていくかというようなことが書かれていたり、身近な病気であるというようなことはどう書いているかというところによって違いがあるというところで、ごめんなさい、まだ調べ中です。多過ぎて。

○ **委員長** 文京区は、がん教育については順天堂大学とも連携しながら各校で講師の方に来ていただいとかがありますので、文京区としてはその辺、もう誰でも起こり得るのだよと。そこにどう向き合っていくかみたいところは、その辺が保健の教科書とリンクしてくるとね。

何かありますか。

○ **委員** 私も、やはり文京区はがん教育ということで、比較して見てみたのですけれども、6社あるうち4社は、少なくともページを半分もしくはそれ以上割いて表記しているかなと思ったのですが、大修館と文教社は、ほかの4社と比べて少ないのです。なので、文京区としては、やはりある程度きちんと押さえている教科書のほうがいいのかなどというふうに思いました。

○ **委員長** 例えばがん教育は、文京区はやはり区としても力を入れて、大学との連携というところでいくと、取扱いがある程度大きいのが東京書籍、大日本、あと光文、学研ということですかね。分かりました。

文教社。

○ **委員** 69ページにちょっと載っています。上のところに、がんや心臓病などの病気にかかりやすくなりますと、ここに載っているのですけれども、ここしかないのかなと。

○ **委員長** やはり扱い方というところが軽重があって、文教社はその辺はあれなのかもしれないですね。分かりました。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○ **担当** 今、話題になったがん教育のところ、文教社のほうですと、60ページを開いていただくと、発展的な学習というところで、もっと考えようかというところで、がんになるリスクを下げようというところで少し触れられているところもございます。

○ **委員長** 発展的なそこのところということですね。

○ **委員** 1ついいですか。別のことでも。

○ **委員長** いいですよ。

○ **委員** 心の悩みとか、心のことについて書かれているのが各社あるのですけれども、光文書院で扱われている人との接し方を考えてみようという、18ページと19ページに見開きで書かれているのがあるのですけれども、各社、箇条書きでいろいろなことを書かれているのですけれども、この会社はシミュレーションというか、自分ばかりを優先したときとか、相手ばかりを優先したときとか、具体的にすごいシミュレーションがあつて、子供目線だと、あつと思ひ当たるようなところがあるのではないかなと思って。

○ **委員長** それはどこにあるのですか。

○ **委員** 光文書院の18ページと19ページに書かれているのですけれども、ここの会社の取扱いが一番具体的で分かりやすかったのと、SNSのことについても右下に書かれていて、これはこの年代で物すごく参考になるのではないかと感じました。

○ **委員長** 自分ばかりを、相手を優先、アサーティブなあれですよ。アサーションみたいところですね。それが光文書院は分かりやすい。

○ **委員** こういう例で書かれているのは、ほかはなかった。似たようなところはあるのですけれども、相談してみようとか、そういうのもあるのですけれども、この書き方はすごくいいと思いました。

○ **委員長** ありがとうございます。

私、今、改めて見ていたのですけれども、文教社の3・4年生のところ、ワンポイントでいろいろ吹き出しの中で大事なことをとかと書かれているのですけれども、例えば22、23ページ、ちょっと待ったとか、ここが大事とか、その辺がすごく見やすさがあるなど。だから、ちょっと待って、もう一回この大事なところを考えてみようねと。それぞれの教科書が大事なポイントをもう一回考えさせてほしいです、ここを考えてほしいんだよねということを、デザインだったり、いろいろな資料を入れたり、ワンポイントの吹き出しでとか、その辺の工夫をされていると思うのだけれども、例えば文教社なんかはその辺がすごく分かりやすいところがあるかなと。

あとは、それぞれの時間のめあてと、本時のメニューと、あと吹き出しにポイントになるようなところという、最後にちょっと待ったでもう一回自分に落とし込んでいくとか、もう一回そのポイントを考えてねという構成がすごく分かりやすいところあるかなと今、見ながら考えたところです。

教科書が多いとどこで見たのか探すのに時間がかかってしまって、そういうところもあるのですけれども、先ほどのがん教育のところはもう平気ですか。

○ **委員** 大丈夫です。

○ **委員長** では、事務局のほうからございますか。

○ **担当** まとめにあるところでもございますが、東京書籍につきましては、養護教諭や栄養教諭、スクールカウンセラーなど、身近な大人のアドバイスが載せられているような掲載があつて、特徴的なところがあるのかなという指摘がありました。

あと、大日本図書につきましては、学習の見通しが非常に持ちやすいということで、構

成上の特徴として指摘をいただいているところです。

そして、大修館につきまして、御指摘があったとおりで、表紙裏のところ、関心を持たせるといところで非常に特徴を出していたかなといところと、あと話を想定されるような、自分で考えて、その後、友達との交流が持てるような構成上の工夫といところが指摘として挙がっておりました。

あと、文教社は、写真が割とほかの社より多いような印象がありまして、写真とイラストとグラフとかいう組合せのところが工夫として御指摘が上がっているところです。

あと、光文書院につきましては、これも御指摘があったとおりで、自分の生活に生かすといところがかなり意識された構成になっておりまして、都度学んだことが自分の生活の中のどこにという考える部分が示されているといところで特色を出していると思いません。

最後、学研につきましては、構成のところで、これも各単元が4つのピースで構成されていまして、学習者としてはこれも非常に見通しが持ちやすいといことが言えるかなと思えます。あと、御指摘がありました書く分量として、罫線もあって、非常に取り組みやすいといことは御指摘の中でありました。

あと、全体で言えますけれども、各社デジタルコンテンツもかなり工夫されていまして、ワークシートが多い会社があつたりですとか、動画が多い会社があつたりですとか、そういった多少の差はありますけれども、かなりデジタルを意識した教科書構成になっているとい御指摘です。

以上です。

○ **委員長** ありがとうございます。

それでは、保健のほうは意見をもういただいたといことで、よろしいでしょうか。

続きまして、外国語でございます。外国語も6つ出ておりますので、ちょっとお時間を取ります。よろしくお願いたします。

では、いかがでしょうか。委員の皆さん、何か。

辞書がついているところもあれば、その辺が東京書籍、開隆堂、三省堂はディクショナリーが別冊でついていたたりとか、ついているから分かりやすい、ないから分かりにくいといことではないのだけれども、一つ教科書とは別にこのような形でまとめているといのは、見やすさとしては、またそこにコードがあって、そこからいろいろ入れるといことだと思うのですけれども、この辺もその教科書会社の特色なのかなといことを感じました。東書、開隆堂、三省堂については、そのような別冊のディクショナリーがついているといところがありました。

ほか、何かお気づきの点、御意見等ございますか。

○ **委員** そのディクショナリーで、教室で使う英語、特に会話文が載っているのが、『Here We Go!』のやつだから、光村と。

○ **委員長** 光村もついているの。ごめんなさい。光村もついているのですね。

- **委員** 別冊ではなさそうに見えるけれども、よく見るとついでいる。
- **委員** あと、三省堂も教室で使う英語として載っていて。
- **委員長** 別冊ではないように見えて、本当だ。これですか。もしかしたら、みんなついでいるのかな。これですね、『Here We Go!』。
- **委員** その中で、教室で使う英語、あるいは会話文として載っているのが光村と三省堂で、すぐにでも本当に使えそうな感じで、自分から進んでやるというとき、「Any volunteers?」「I'll do it!」みたいな感じで会話文で載っていたりして、本当に子供たちが真似して使えそうだなというのが情景として浮かんだので、面白いなと思いました。
- **委員長** デクショナリーでも、すぐ子供が使えそうな場面のものが載っているという。光村と三省堂ですね。分かりました。ありがとうございます。  
ほか、いかがですか。構成も大分教科書によって。  
さっき委員が、書き込みのしやすさでと保健のときにおっしゃっていたのですけれども、私、その視点でもちょっと見たら、東京書籍は書き込みのしやすさというか、それはほかのと比べるとすごくあるかなと。調査研究委員会のところでも、書き込みがしやすいとか、それが分かりやすさということ。私も見ながら、書き込みがしやすい、確かにというところは、東京書籍なんかはあるかなと。  
あと、教科書も大きいとか、ちょっと横広とかありますけれども、東京書籍なんかはちょっと縦長で大きめかもしれませんけれども、書く分にはこのぐらいあったほうが書きやすいかなというところが確かにありますね。  
ほか、いかがでしょうか。  
お願いします。
- **委員** 書き込みのしやすさという話で、6年生の自己紹介、「This is me」というのがありますが、今の東京書籍の書き込み、こんな感じなのですね。小さい教科書は書き込みにくい。あと、同じ形で比較的出ているのは、開隆堂は同じ大きさと大体同じような感じ。
- **委員長** ということは、開隆堂も書きやすさはあるかな。東書と同じように。
- **委員** 三省堂も大きくなっているというところですが、三省堂の場合は「This is me」ではなくて、友達との共通点みたいな、自己紹介の仕方がちょっと違うので、そういう観点ではちょっと違うところですけどもという形です。
- **委員長** ありがとうございます。  
例えば書き込みのしやすさみたいなのは、今、委員からもちょっとあったのですけれども、ただ、このタイプのA4、これではなくて、こっちのも幾つかあるではないですか。教育出版、あと光村図書についてはこの形なのですけども、この形にあえてしているよさというの何かあるのかな。どなたか何かありますか。  
それ以外でも何でも、ほかにございますか。

教育出版を見ていたのですけれども、ここに書いてあるように、イラストに多様性だったりとかというのが確かに配慮が感じられるなというのが教育出版で、最初のところが、5年生の12、13ページ、ハルトさん、車椅子に乗っているお子さん。つまり、こういうお子さんが、いろいろなお子さんがいますよと。多様性を。あとは、人権的な配慮を含めて、最初のこのところから、この教科書は一貫してそういう配慮がところどころに入っているのかなというところは、この調査研究委員会のまとめのところにもありますけれども、その辺は最初のところをめくったところからすごく感じたところです。

ほか、何かございますか。

例えば啓林館はさっき話題に出ていなかったかな。ブルースカイですね。これは別冊にはなっていないけれども、ディクショナリーがリストということで、ワードリストで後半に載っているのですね。だから、別冊にしているか別冊にしていないかというところがあるのかもしれない。これもその辺は入っているかなと。

いかがでしょう。啓林館を見ていて、こういうところは確かにほかの教科書と比べて分かりやすさがあるかなとか、何かその辺があれば。いかがでしょう。何かございますか。

私、ちょっと見切れていない部分はあるかもしれないのですけれども、ブルースカイの啓林館については、5年生の最初の見開きのところ、目次があって、アルファベットがあって、その次に、コミュニケーションに大切なことというのが整理されているのですけれども、これは外国語の学習、英語の学習を通して、どこにも大切にするとところかなと。

昨日、本校の5・6年生の授業を見たときに、相槌というところも大事だということをは、ALTのほうがそういうのが大事だよねということ伝えていた場面もあって、やはりコミュニケーションに大切なことがこういうふうに整理されているというのは、すごく啓林館は見やすさがあるかなということは見ていて感じたところです。

ただ、ほかのところももしかしたらこういうページがあるのかなと。私、見切れていない部分があるのかなと思って、そういうところで、ほかに何かありますか。コミュニケーションでこういうところを大切にしていこうよ、みんなというのが散りばめられていることはあると思うのですけれども、まとめて資料としてこんな形で載っているみたいなことというのは、ざっと見た感じ、そこは目につかなかったところはあるのですけれども。

そこは離れて、ほかに何か。

○ **担当** 今の点で言うと、『Here We Go!』、光村の初めのほうに「いつも大切」というページがあるのです。初めのほうに、ぺらっとなっている。私は今、『Here We Go!』、6年生の9ページ、「いつも大切」というふうに、ぺらぺらと書いています。ここに、スマイル、アイコンタクト、クリアボイス、レスポンスといって、どの英語の授業でもこれをちゃんといつも大切にして、英語の授業をやりたいというふうに載せているのが光村です。これは調査研究委員会の基礎資料にも掲載されています。

○ **委員長** ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

ほか、何かいかがですか。

では、事務局のほうから何か補足はございますか。

○ **担当** 1点だけ。

今回の教科用図書の採択で、子供が使うデジタル教科書の使い勝手の要素を加味してよいと言われているのがこの外国語だけなのです。そういった意味では、調査研究委員会からのまとめで、全社用意しているのですが、特に調査研究委員会としては注目すべきと言っているのが、御紹介させていただきますと、東京書籍の2番に書いてあります。児童用デジタル教科書は、映像が多く興味を引きやすい上、字幕の有無を選択することができる。これがまず東書の2番目です。あとは、啓林館の3番に、やはりデジタル教科書では、歌やチャンツの字幕が進み具合をなぞって表示されるので分かりやすいというふうに、デジタル教科書についてはこの2社、調査研究委員会からは報告が上がっておりますので、御報告させていただきます。

以上です。

○ **委員長** ありがとうございます。

あえてその2社はデジタル教科書というところで書いてあるのですね。分かりました。ありがとうございます。

それでは、外国語のほうよろしいでしょうか。意見のほうを出していただいたということで。

ありがとうございました。

では、最後になります。特別の教科道徳につきましても結構多数のものがございまして、道徳のほうも調査研究委員会のまとめのほうを御覧いただいて、お願いいたします。

では、委員の先生、いかがでしょうか。道徳もちょっと多いので、いかがでしょうか。何かございますか。

文京区ということだと、光村の6年生の教材に小川笙船の教材がありと。これは地域の特性に合った教材かなということは、調査研究委員会のところにも書いてあります。

どうぞ。

○ **担当** 道徳、同一教材がなかなかなくて比べづらいと思うのですがけれども、手品師が同一教材としてございまして、光文書院は5年生、学研が5年生、ほかのものは6年生に載っていますので、もし手品師の同一教材で、6社全てあるものですので、比較するときにもし検討があれば見ていただけると。光文書院が5年生。

○ **委員長** 5か6なのですよね。

○ **担当** はい。2社が5年生、4社が6年生、光文書院と学研が5年生になります。それ以外は6年生で載っておりますので、もし同一教材ということであれば、そこで御確認ください。

○ **委員長** これも挿絵というか、これで雰囲気全然違うのですよね。あと、5年生扱

い、6年生扱いと。

ほか、今の例えば同じ教材で比べるということになると、手品師がというところがありましたけれども、それを確認していただいて、その御意見でもいいですし、ほかのことで何か気づかれたことあれば、そこも含めてお出しただければと思います。いかがでしょうか。

お願いします。

○ **委員** やはり道德だと、それぞれの子の考えとか書き方、その子の表現の仕方というのが様々にあって、そういった多様性を生かしながら高めていくというのが大切な教科かなと思うのですけれども、文京区の子供たちの様子も考えると、6社のうち1社、日本文教出版だけ道德ノートという別冊のワークシートブックみたいなものがあるのですけれども、こういうのが書きやすいという子供の実態であれば、この冊子も非常にいいかと思うのですけれども、文京区の子供の実態を考えると、これはなくてもいいのではないかなというふうに率直に思いました。ですから、ほかの5社のほうが子供の書き方とか表現の多様性がより伸ばせるのではないかなという気はしました。

○ **委員長** 教科書がほかと違うのだけれども、それが文京区の子供から、これよりはそれぞれの担任だとか、また違う形でというほうがなじみやすいのかもしれないということですね。これは1社ですね、日本文教出版。分かりました。

ということで、それ以外はないということですから、どんなふうに子供に振り返らせて、そこは文京区の子供たちに合ったそれぞれの先生方が工夫していけばいいかなというふうに思っています。あることによって、使い勝手がいい面もあれば、ちょっとなじまないところもあるかもしれませんね。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○ **委員** 東京書籍と日本文教出版と学研のそれぞれの教材の最後のほうに考えようとか手引きみたいなのが載っていますよね。そういうのが適度かなと。ほかの今言わなかった社のやつは、たくさん書かれていて、書かれ過ぎてしまっていて、採用しなければいいだけなのかもしれないのですけれども、いざ授業をやるというときには、それで結構縛りになってしまうときがあるので、今日も授業観察で道德を見たのですけれども、今の道德は国語の読み取りではないので、読解みたいになってしまわないようにするために絞っていかなければいけないので、議論させるとか、考えることを絞っていかなければいけないので、あまり丁寧過ぎる、いろいろな発問が載っているのはどうかなというふうに思います。

○ **委員長** そうですよ。それに縛られてしまう。

ということは、今、どこがいいと。

○ **委員** 東京書籍、日本文教出版、学研は、その点では適度な投げかけでした。

○ **委員長** ということは、ほかはそこがもっと多かったり、縛られやすいみたいなのところがある。

○ **委員** 国語の読解めいたところがちょっとあるかなという感じがしました。

○ **委員長** 分かりました。

ほか、いかがでしょうか。何かございますか。

お願いします。

○ **担当** 今、委員が言ってくださったことは、調査委員のほうでも話が上がっていて、例えば教育出版とかは、低学年が物語教材で、中学年が生活教材で、高学年は主に人物教材になっているのですが、高学年の特に人物教材は、文章の記述がやや詳しくて読みに時間がかかるため、指導上、工夫する必要があるねというようなことで、教育出版は話がありました。

あと、光文書院さんも、発問が4つ、全ての学年で1年生から全て4つあるので、その辺りも今、校長先生がおっしゃっていただいたところで、もちろん丁寧で分かりやすいところもあるけれども、時間的にじっくりというふうに考えると、少し光文書院さんも指導上の工夫は必要かなというような話はございました。

○ **委員長** ほか、どうでしょうか。

どうぞ。

○ **委員** 道徳ですごく感じるのが、文京区の子供たちは勉強はよくできるので、道徳でも、何が正しい答えなのかというのを頭で分かってしまう。だから、結構ヒントがたくさん、例えばいじめをなくすとか、そういうふうにタイトルで書かれていたりとかすると、それにふさわしい解を出してしまえてしまうというのがすごくあるなというのを感じるのです。

でも、これは頭で解を出すことではなくて、心を動かすことが道徳は大事なので、教育出版は全部タイトルに目的が書かれていて、そうすると解が分かってしまうなというふうに思うのですが、見ていたときに、例えば東京書籍はめあてみたいなの、「保護者の皆様へ」といって後ろのページに心の力持ちを目指してということをお願いして編集しましたというメッセージも書かれていたりとか、ある程度書かれているけれども、物語から答えがない中で受け取りながらというのが、空間があるのがすごくいいなと思いました。今のが東京書籍です。情報が逆にあまり丁寧ではなくて、空間があるというか。

○ **委員長** 子供が考える幅がということですよ。ありがとうございます。

どうでしょう。ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○ **委員** 学研の1つ特徴だなと思って、これがいいなと思ったところなのですが、道徳というとキャリア教育とのつながりというのが非常に大切になってくるかなと思っていて、そういった中で、先ほど他の委員もおっしゃっていただいていたのですが、話し合っ、友達のを考えるようなページが結構あって、例えばこれからの自分について考えようというところに、自分の考え、友達の考えというのが載っていたり、5年生の13ページのところに心のパスポートというページがあって、これからの自分について考え

ようで、自分の考えと友達のことを書くような欄とか、あとは5年生の133ページにも、話し合っただけで考えたこと、分かったことということで、話し合いの場を設けて、それについて考えたこと、感じたこと、分かったことというのを書かせる欄が設けられているので、そういうふうに話し合いをさせるようなページがあるなというのを感じたのと、あと、現代だなと思ったのが、SNSのこういうページがあって、SNSにアップする前に一呼吸といって、友達から送られてきたからこの写真をアップしようみたいなのに、ちょっと待ってみたいな、そういうのが載っていたりとか、現代に合わせていて、かつ、キャリア教育にも力を入れているような感じを得たのが学研のものでした。

もう一つ、違う観点でいいなと思ったのが、光村図書さんがSDGsのことを各ページの右下、これも5年生なのですけれども、右下に数字が書かれていたり、ところどころSDGsのマークが載っていて、SDGsとの関連を、このページはSDGsとの関連がありますよということをしっかり明示しているというのは一つ特徴的で、SDGsを意識させる、持続可能なというものを意識させるにはいいのかなというのを感じました。

以上です。

○ **委員長** ありがとうございます。

では、ほかはいかがでしょうか。

私、見ていて、例えば教材名があって、その教材はこういうお勉強だよと。でも、そのもっと大きな上に、それが、自分のことなのか、社会と私ということなのか、あなたと私、相手がいて自分がいてと、その辺を大きく明確に示しておくというのは見通しが持ちやすいと思うのですけれども、そう考えると、最初の目次のところで、いろいろな表現の仕方はあるのですけれども、例えば学研は教材がば一つと最初に並んでいて、その後ろに、私のことだよ。だから、私に関係すること。あなたと私、あなたがいて、私との関わりとか、社会と私、命や自然、こんなふうに分かれているのがすごく見やすいと思っていて、そういう視点で見ると、例えば学研はそういう構成になっているのですごく分かりやすいなというのと、あと、同じような感じが教育出版も、大きく4つに、そのお勉強はこの教材ですのだよというようなことが出てきている。あともう一個が、これはこんなふうにページで、2、2で4つに分かれていて、東京書籍ですね。これも分かりやすいなど。

あと、光文書院はちょっと書き方が違うのですよね。ただ、この4つだよと。自分のこと、ほかの人とのこと、これと教材はちょっとリンクしていないところはあるのですが、今言った3つなんかは、その辺が分かりやすいから見通しが立ちやすいかなというようなことは感じたところです。

では、事務局のほうから何かございますか。

○ **担当** 2点ございます。

1点が、お話の中でも上がっていた、教材の題名があるところに、あらすじがそれこそ載っていたりとか、それこそあまりそこはもう誠実というキーワードだけになっていたりとか、その辺りも、文京区の子供たちにとってはどっちがいいのかなということで、研究

のほうでも話がありまして。きゅっと締めてしまうよりも、広く最初、教材から出会って、内容を読み取っていくというほうがいいのかなど。あらずじでひゅっと乗るよりもというような話がありました。

あと一点、タブレットのQRで、こういうコンテンツの心情メーターみたいなものが動かせて、それぞれ今、手品師で作ってみたのですけれども、こういうふうにするので、東京書籍と日本文教出版がこういうものがあつたので、先生たちがもし使いやすければということで、研究委員のほうで話が上がりましたので、報告させていただきます。

○ **委員長** 心情メーターがあれなのですね。ぴっと。

○ **担当** ここが動かせて、どちらにするというときには、1回目はこっちで、次、2回目は子供たちで、タブレットで話していくというのも使いやすいのではないかというようなこともありました。

○ **委員長** 分かりました。ありがとうございます。

それでは、特別の教科道德のほうについては、もう御意見をいただいたということでもよろしいですか。

ありがとうございました。

それでは、この後、少し休憩を取りまして、今度は、前回の意見を出した答申文のほうを確認するという形にさせていただきます。

では、お時間のほう、トイレ休憩ということで、3分ぐらいでよろしいですか。あの時計で58分ということで、3分少々トイレ休憩等をしていただければと思います。

(休 憩)

○ **委員長** それでは、再開をさせていただきます。

お手元の資料1、令和6年度より使用する文京区立小学校教科用図書についての答申案を御覧ください。

まず、この答申文の構成について、事務局のほうから御説明をお願いします。

○ **担当** それでは、お手元の答申文の構成について、概要を説明させていただきます。

まず、前回御審議いただきました内容につきまして、今回、答申文案を作成しております。答申文案の構成となりますが、冒頭の文章には、学習指導要領に記載されています各教科の目標や狙い等について書かれております。その下に、今回御審議いただきました内容について、事務局でまとめた各発行者の内容についての記載がございます。

以上です。

○ **委員長** ありがとうございました。

では、答申文の審議の内容、あと進め方について、副委員長のほうから、何かありましたらお願いします。

○ **副委員長** 今ございましたように、前段のところは学習指導要領の内容に基づいて書

いておりますので、事務局の作ったものにお任せをいただければと思います。

その後の各発行者の記述でございますが、公平性の観点から、特定の発行者について詳しく書くということがないように配慮しております。若干、改行位置等の関係で1行ぐら多い、少ないということはあるかもしれませんが、基本的には同じような分量で書いているところでございます。

前回、それぞれの教科で話題になったことを思い出していただいて、この議論についてはぜひ載せたいけれども漏れているというようなことがあれば御指摘をいただいて、事務局でそれを反映させていただければと思います。

なお、事務局の都合で大変恐縮ですが、本日は算数から御審議いただきたいと思っております。私からは以上でございます。

○ **委員長** ありがとうございます。

それでは、今、副委員長のほうからお話があったとおりでございますが、審議については、今、御説明のあった進め方でよろしいですか。

では、本日は時間の関係で算数のみといたします。

算数のページをお開きください。ここに書かれた内容をお読みいただいて、前回審議した内容がここに反映されているということだと思っておりますが、こういうところの記述がちょっとないのではないかとか、思い出していただいて、もし何かありましたら御意見をいただければと思います。

では、算数の部分、ちょっとお時間を取りますので、よろしくお願いたします。

○ **担当** では、私のほうから読み上げさせていただきます。

まず、東京書籍になります。

東京書籍は、各単元の冒頭が、全学年からのつながりを意識した構成になっている。また、4年生以上では、世界レベルで活躍する方々の算数との関わりを掲載し、算数の身近さを味わい、意欲が高まるよう工夫している。単元の後半では、問題解決に取り組めるよう吹き出しや発言をシンプルにしている。二次元バーコードで読み取るコンテンツでは、単元の導入時に動画が用意されており、学習の内容に児童が興味を持つための工夫がされているとさせていただきます。

大日本図書は、目次を見るだけで、下学年から上学年へ単元の見えようように工夫されている。学習の過程を「問題をつかもう→自分で考えよう→学び合おう→まとめよう→使ってみよう→振り返ろう」のタグで示し、児童自身がどの活動をしているのかを明確にする工夫がされている。二次元バーコードで読み取るコンテンツが多数用意され、年間を通した学習を振り返ることができる工夫がされている。

学校図書です。学校図書は、数学的な見方・考え方を様々な場面で使えるよう、キャラクター化したマークを使い、児童が楽しみながら算数の思考を深められるよう工夫されている。身の回りの図形や教材が豊富に記載されているとともに、3年生以上に特設ページ・端末ページとして、「図や表を使って問題を考えよう」というページが設定されている。

「なるほど算数」で円周率の歴史を扱うなど、学習の内容に児童が興味をもつための工夫がされている。

教育出版は、新学期の初めに授業の中で伝え合い・学び合うための授業開き特設教材の掲載や、単元末に学んだことの要点を押さえる4コマ漫画を設定している。問題解決の手だてとして図で表現することを大切にしており、図を描かせるための工夫がされている。4年生以上の巻末には、「広がる算数」が各単元のまとめからリンクし、SDGs等について扱いながら算数の学習と現実世界を繋げる探求的な教材を掲載している。

ページをおめくりください。

啓林館になります。啓林館は、多数用意されているデジタルコンテンツは、教科書内の二次元バーコード近くに内容の見出しが付いていて、デジタルコンテンツを開かずとも分かるように工夫されている。学習のまとめでは、協働的な学習を通して分かったことの「まとめ」を、算数が苦手な児童にとっても分かりやすい言葉で例示している。3年生以上に「わくわくSDGs」のページを設け、児童が算数での学習を生かして「現代的な課題」について考える学習の充実を図っている。

日本文教出版は、全時間に「めあて」と「まとめ」が記載され、見てすぐ分かる学習の流れになっている。めあての近くに、見通しを立てたり、筋道を考えたりするための着眼点を「見方・考え方」としてはっきりと明記しているため、児童が意識して学習しやすいよう工夫されている。より多くの子供たちが興味・関心を持って取り組むことができるように補充問題が「基礎・基本」「応用・発展」「探求」的な問題の3段階に分かれている。

以上になります。

○ **委員長** ありがとうございます。

前回やった算数について、今、答申文のほうを読み上げられましたが、内容について御質問、御意見がありましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。特にいいですか。

特に意見がないようですので、算数については以上で終わりにしたいと思います。

では、時間となりました。本日の審議についてはここで終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

では、本日の審議内容について、答申文のまとめ方、副委員長のほうからお願いいたします。

○ **副委員長** 前回に引き続き、御審議をいただきまして、ありがとうございました。

本日、教科用図書調査研究委員会からの報告のまとめを踏まえ、皆さんからいただいた御意見を事務局で答申文案としてまとめて、次回、7月3日に内容を御確認いただく形を取らせていただこうと考えておりますけれども、よろしいでしょうか。

そのことについて、次回の審議会でも審議できればと存じます。

○ **委員長** 今、副委員長のほうから御説明がありました。

今回、意見を出したものについては、事務局が答申文案にまとめをしていただいて、次

回、それが同じように提示され、今日できなかった算数以外のもの、あと今日審議した御意見を伝えたもの、それをまとめてという形になります。

では、次回、7月3日月曜日18時から、残りの答申文の審議ということで行いたいと思います。それぞれ御多用とは思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

では、事務局のほうからお願いいたします。

○ **担当** 第2回の議事録及び前回の答申文案を机上配付させていただいております。もし何かお気づきの点等ございましたら、次回までに、また私へ御連絡いただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

○ **委員長** ありがとうございました。

では、会議録についても、何かあれば事務局のほうにということで、よろしく願いいたします。

それでは、以上で本日の審議を終了いたします。本当にありがとうございました。